

□海外文献紹介□

バリウム注腸検査中に生じたラテックス・アレルギーによるアナフィラキシー

Anaphylaxis associated with latex allergy during barium enema examinations: *Owenby DR, et al* (AJR 156: 903-908, 1991)

1989年1月から90年5月までの期間に著者らの病院(Detroit)で6名の患者にバリウム注腸検査中にアナフィラキシーが発生した。第1例は49歳の女性で、アトピー皮膚炎、喘息、アレルギー性鼻炎などのアレルギー体質者であるが、ゴム製品過敏の既往はない。カフ付きのカテーテルを挿入しバリウムの注入を開始5分後から、かゆみ、胸部圧迫感、

全身紅斑、呼吸困難が生じ、救急蘇生処置にも反応せず死亡した。他の5名は25歳から78歳のいずれも女性で、ともにアトピー皮膚炎、喘息、Crohn病などアレルギー体質のものである。主な症状は血圧低下で、浮腫や蕁麻疹を伴ったが大事には至らなかった。

これらの患者の発症数時間以内の血清では、3例でIgE値が増加していた。ラテックス・アレルゲン特異的IgE抗体が3例ではRAST法により、他の2例を含む3例ではELISA法で証明され、検査した3例中2例で肥満細胞由来トリプターゼ値が上昇していた。

この偶発症は発生場所も術者も使用したバリウムのロットも異なり、

使用した水にも問題がないことから、これらが原因とは考えられない。グルカゴンによるアナフィラキシーの報告があるが、著者らは使用していない。2例でバリウム注入前から症状が起きていることから、ラテックスに対するアレルギーが最も疑わしい。上記の各試験結果はそれを支持するものであり、更に皮膚試験を行いえた1例ではラテックス抽出物に陽性であった。

以上からこれら6例の注腸検査中のアナフィラキシーはラテックス・アレルギーによると結論される。アレルギーを起こさない製品の開発をメーカーに望みたい。

(関東通信病院消化器内科

太田雅弘 抄)